日本の「ひとり」史 フル版

生活総研

1970年代 | 1980年代 | 1990年代 | 2000年代 | 2010年代 | 2020年代

社会・経済事象

高度成長 | 安定成長 | バブル経済 | 社会不安増大・低成長(失われた10年) | 構造改革推進・格差拡大 | デフレ進行・大不況期 | 景気復調 | コロナショック→アフターコロナ

- ・大阪万博(70)
- ・日本列島改造論(72)
- ・国際婦人年(75)
- **・バブル景気(86〜91)**
- **・バブル崩壊(91)**
- ・阪神・淡路大震災(95)
- ・地下鉄サリン事件(95)
- **・山一証券・北海道拓殖銀行破綻(97)**
- **・孤独死が社会問題化(00頃〜)**
- **・単独世帯が最多の世帯類型に(06)**
- **・格差社会(06)**
- ・リーマンショック(08)
- ・東日本大震災(11)
- ・アベノミクス(13)
- ・#MeToo運動(17)
- **・新型コロナウイルス世界的流行(20)**
- ・LGBT理解増進法(23)

法制度・働き方

モーレツ社員(69頃〜)
脱サラ(71)
キャリアウーマン(78)

根強い"みんな"志向
「イッキ!イッキ!」流行語大賞(85)
「24時間戦えますか」流行語(89)

男女雇用機会均等法施行(86)

組織に属さない働き方に注目が集まる
SOHO、**フリーター(87)** フリーランス(90年代)

就職氷河期
リストラ

ニート(05)
派遣切り(09)
ワーク・ライフ・バランス憲章(07)

場所・時間に縛られない働き方が広がる
ノマドワーカー(09) サテライトオフィス
クラウドソーシング(08頃) コワーキングスペース(10頃)

女性活躍推進法(16)

働き方の多様化
副業解禁(18) **リモートワーク普及(20)**
フラリーマン(18頃) ワーケーション(20)
働き方改革(19)
#忘年会スルー(19)

メディア・情報機器

パーソナルメディア登場
パーソナル電話 / 自動車電話サービス開始(79)
ビデオデッキ(79)
ウォークマン(79)
ファミコン(83)
コードレス電話(88)
ノートPC(89)
ゲームボーイ(89)

PC・携帯の普及
ポケベル普及(93)
PHS普及(96)
Windows95(95)
iモード(99)

ネットのインフラ化
iPod(01) **ケータイ小説(07)**
mixi(04) **iPhone3G(08)**
ニンテンドー DS(04) **Facebook、Twitter(08)**
ブログブーム(05)

スマホ・SNSの普及/常時接続
Instagram(10) AirPods(16)
LINE(12) TikTok(17)
スマホゲーム(13) Nintendo Switch(17)
Netflix(15) AirPods Pro(19)

疲れないつながり方を模索
BeReal(20)
メタバースSNS・Bondee(22)

「ひとり」にかかわる事象・コンテンツ

1 「ひとりなんてありえない」
みんな同じ=豊かといった価値観。
「ひとり」は社会からの外れ者。

2 「ひとりもありかも」
組織や制度から脱却し個性を求めて
「ひとり」を謳歌する人が脚光を浴びた。

3 「ひとりでいるしかない」
バブル崩壊後、経済的に厳しい状況下で「ひとり」は
不安な状況になり、社会問題にもつながった。

4 「ひとりでも気にならない」
「おひとりさま」商品・サービスが充実し「ひとり」
行動がしやすくなる。コロナ禍でさらに加速した。

これからは?

"みんな同じ"がいい
3C(60年代半ば〜)
一億総中流(70年代)

ドロップアウト(60〜70)

新しい女性の生き方を模索
ウーマンリブ(70)
アンノン族(71)
『クロワッサン』(77)
翔んでる女(77)
女性の自立を描く映画『結婚しない女』(78)

影響

反動

「ひとり」がかっこいい
楽曲『15の夜』(83) **独身貴族** オヤジギャル(90)
書籍『深夜特急』(86) 自立・主体的な女性像
→バックパッカーブーム(80〜90年代) ドラマ『東京ラブストーリー』(91)

おたく(83)

影響

「個」を前提とする家族関係の模索
家庭内離婚(86) 成田離婚(90)
選択制夫婦別姓話題(80年代) バツイチ(92) シングルマザー(94)
DINKS(88) ドラマ『結婚しないかもしれない症候群』(91)

影響

家族関係の変化
子どもの孤食・家庭の個食が問題視(80年代前半)
書籍『妻たちの思秋期』(82)
映画『家族ゲーム』(83)
くれない族(84)

影響

「ひとり」をめぐる不安
ひきこもり(94) **便所飯** リア充/非リア充(07頃)
パラサイト・シングル(97) **ぼっち** 婚活(09)
KY(07) 無縁社会(10)

反動

「ひとり」を肯定的に捉える「おひとりさま」
書籍『おひとりさま』(01)
「おひとりさま」流行語ノミネート(05)
ドラマ『おひとりさま』(09)

分化

自虐的な開き直り
勝ち組・**負け犬(04)**
ドラマ『結婚できない男』(06)
ドラマ『ホタルノヒカリ』(07)

促進

「ひとり」の楽しみ方が多様になる
ソロ充(12頃) ドラマ『ワカコ酒』(15) **ソロ活**
ドラマ『孤独のグルメ』(12) 漫画『ゆるキャン△』(15)
書籍『超ソロ社会』(17) 楽曲『おひとりさま天国』(23)
「おひとりさま女子の〇〇」本が発売(15〜16) **#ぼっち参戦、ひとり参戦**
漫画『ぼっち・ざ・ろっく!』(18)→アニメ化(22)
書籍『ソロ活女子のススメ』(19)→ドラマ化(21)

相互に影響

自分でケア・管理する「セルフ」意識の広がり
セルフマネジメント(10年代) セルフラブ
セルフプロデュース(10年代) セルフメディケーション(17)

影響

シェアハウス(10頃)
デジタルデトックス
SNS疲れ

「おひとりさま」商品/サービス拡充
ひとりカラオケ(11) ひとりおせち(12) ソロキャンプ(20) **ソログルキャン(22)**
ソロウェディング(18) ひとり焼肉(18)など……

生活・消費

- マクドナルド1号店(71)
- バラエティ『8時だョ!全員集合』、視聴率50%超(71)
- コンビニ登場(74)
- デニーズ1号店(74)
- 楽曲『およげ!たいやきくん』(76)
- 書籍『なんとなく、クリスタル』(80)
- ウォシュレット(82)
- 東京ディズニーランド開園(83)
- ワンルームマンション投資ブーム
- 軽薄短小
- 朝シャン(87)
- 東京ドーム完成(88)
- ジュリアナ東京(91〜94)
- 2,500円スーツ(93)
- コギャルブーム
- ジミ婚(96)
- プリクラ
- たまごっち(97)
- ユニクロ・フリース(98頃)
- ネット通販拡大
- トクホ商品
- ロハス(04)
- ドラマ『電車男』(05)
- イオンモール(07)
- pixiv(07)
- 初音ミク(07)
- ファストファッション(09)
- イクメン(10)
- 東京スカイツリー完成(12)
- 映画『アナと雪の女王』(14)
- フリマアプリ(16)
- インスタ映え(17)
- キャッシュレス決済(19)
- アニメ『鬼滅の刃』(19)
- ステイホーム(20)
- オンライン飲み会(20)
- モバイルオーダー(20)
- 親ガチャ(21)
- 推し活(21)
- 生成AI/ChatGPT(23)

日本の「ひとり」史 フル版 解説

「ひとり」にかかわることがらやキーワードを年表でみてみましょう。その移り変わりからは、これまで日本社会における「ひとり」の位置づけが大きく変わってきたことがわかります。これから先を考えるうえでも大きなヒントとなるでしょう。

1 「ひとりなんてありえない」時代

【～1970年代】

日本の戦後から70年代までは、同じ製品を効率的につくる大量生産の時代でした。同時に、みんなで団結して効率的な生産に向かうため、同じようにモーレツに働き、同じような専業主婦世帯を形成し、3C（カラーテレビ〔Color television〕・クーラー〔Cooler〕・自動車〔Car〕）など家財を少しずつ充実させながら暮らし、「一億総中流」ともいわれるように、人並みでありたい意識によって社会が運営されていました。みんな同じであることが当たり前であり、「ひとり」は異端児・外れ者のような意識であった時代です。

2 「ひとりもありかも」時代

【1980～1990年代前半】

80年代以降は、みんなとは差別化した個性を求める人たちが増えてきます。象徴的には87年に「フリーター」という言葉が登場しています。これは組織に属さず自分を主体として働く人たちを当時肯定的に捉えたものでした。ほかにも、女性の社会進出とともに、「個」を前提とする家族関係が模索されるなか、「独身貴族」など結婚制度から離れようとする人を称賛する言葉も誕生しました。世の中全体としては、「イッキ！イッキ！」「24時間戦えますか」が流行語になるなど、会社・家族・仲間などの集団の力がまだまだ強かったからこそ、あえてそこから脱して自分主体で行動するオピニオンリーダーとしての「ひとり」が生まれてきた時代でした。

3 「ひとりでいるしかない」時代

【1990年代後半～2000年代】

90年代後半には、バブル経済崩壊が本格的に人びとの生活に影を落とすように。成長し続けるという目標を失い、名だたる大企業の倒産、人員のリストラ、非正規雇用者の増加など会社の構造変化が起こります。「ひきこもり」「パラサイト・シングル」に注目が集まり、00年頃から孤独死が社会問題化しはじめます。00年後半には「ぼっち」として孤立した人が注目されるようになりました。拠り所となる中間集団が崩壊し、多くの人が寄る辺ない「ひとり」として不安な状況におかれた時代を映しています。その反動で、個の確立ができている大人の女性を「おひとりさま」と肯定する一方、30歳代超で子どものいない未婚女性たちが、半ば自嘲的に使用してブームとなった「負け犬」という言葉も出現しました。

4 「ひとりでも気にならない」時代

【2010年代～】

00年代半ばから、スマホやSNSが普及していくことで、リアル以外で、不特定多数の人とのつながりをつくれるようになると同時に、ゲームや動画などのエンタメ領域が充実し、人びとは「ひとりでいられる」ようにもなってきました。また、「単独世帯」が最多世帯類型になり、「ひとり」市場が注目されるようになったことを受けて、10年代以降に様々な「おひとりさま」商品やサービスが拡充しました。そして「おひとりさま」は「ソロ活」としてさらに活性化していきます。自分のことは自分で行う「セルフ意識」が広がり、20年からはじまったコロナ禍の影響で人との ディスタンスが必要になった期間を経て、「ひとりでも気にならない」時代になりました。仕事でもプライベートでもオンラインで常に人とつながれるようになり、SNS疲れという言葉が生まれましたが、「ソログループキャンプ（ソログルキャン）」や「＃ぼっち参戦」などにみられるゆるやかなつながりや、「BeReal」のような気を遣わないつながりなど、「ひとり」でいながらも新たなつながりが模索されるようにもなってきています。

さて、これからはどのような時代になるのでしょうか？